Seibu Group
でかける人を、ほほえむ人へ。

安全・環境報告書

2026



西武鉄道

西武鉄道からご利用のお客さまへ
「安全・環境報告書 2026」公表にあたって



2026年9月
西武鉄道株式会社
取締役社長
小川周一郎

皆さまには平素より西武鉄道をご利用いただきまして厚く御礼申しあげます。また、当社事業に対しご理解を賜りまして感謝申しあげます。

当社では、お客さまに安心してご利用いただくために、日々安全性の向上と、環境対策に取り組んでおります。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、2025年度に発生した運転事故や輸送障害の発生状況、安全性向上のための施策、環境に配慮した施策など、「安全」と「環境」に関する取り組みをまとめたもので、当社をご利用いただくお客さま、そして、地域のみなさまに広くご理解いただくために作成したものです。

まず、安全に関する取り組みとして、踏切事故のリスクを抜本的に排除するため、立体交差化による踏切の解消を推進しています。踏切をなくすことで、列車と道路交通の交錯を解消し、歩行者・自転車を含む通行の安全性向上を図ります。このため、新宿線の中井～野方駅間、井荻～西武柳沢駅間ならびに東村山駅付近における連続立体交差事業を進めており、2025年6月には東村山駅の新宿線下り線を高架化しました。さらに、野方～井荻駅間についても連続立体交差化に向けた準備を進めています。

また、踏切の安全性を向上させるため、踏切支障検知装置の新設や高機能化、踏切内に取り残された「人」を主な検知対象とした踏切異常検知システム（AIや3D画像解析による検知システム）の設置を進めています。

さらに自然災害に備え、線路に面した斜面の土砂崩壊を防止し安定化を図るため、法面改良、落石防護設備の設置を進めるなど、列車運転の安全性・安定性の向上に向けて取り組んでいます。

加えて、日々防災に対する関心が高まるなか、当社線をご利用になるお客さまに対し、震災時も「安心」を提供するべく、2024年4月から「駅まちレジリエンス」をテーマに発災時の対応力強化を目的とした施策を展開しており、2025年11月の総合復旧訓練において備蓄品配布訓練を実施しました。また、2026年1月には所沢市（所沢駅周辺帰宅困難者対策協議会）と合同で「帰宅困難者誘導・一時滞在施設開設訓練」を実施しました。

そのほか、既存の「事故情報展示室」を2025年6月より「安全共育室」としてリニューアルし、全役員・社員を対象に輸送の安全に関する教育を実施するとともに、各種訓練の実施、安全情報（失敗やヒヤリ・ハット事例および成功事例）の収集および対策の実施による事故の未然防止、お客さま向けの踏切事故防止キャンペーンの実施など、ソフト面においても、積極的に安全性向上のための施策を推進しております。

環境に関する取り組みとしましては、2024年1月からすべての鉄道用電源を再生可能エネルギー由来とし、CO_2排出量が実質ゼロとなりました。

さらに、省エネルギー化を加速するため、環境負荷の少ない車両を小田急電鉄株式会社ならびに東急電鉄株式会社から譲り受け、「サステナ車両」として運行しています。

今後も西武鉄道では、地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、安全で快適なサービスを提供できるように、さらなる努力をしてまいります。ぜひ、本書をご一読いただき、当社における安全・環境への取り組みについてご理解をいただければと存じます。



CONTENTS

2025年度のトピックス ---------- 3
安　全
第1章 安全に関する基本方針 ---------- 5
第2章 安全管理体制 ---------- 6
第3章 安全確保のための取り組み ---------- 9
第4章 2025年度 鉄道事故等に関するご報告 --23
第5章 お客さま・地域の皆さま・関係機関の皆さまとともに ----------25
環　境
第6章 環境への取り組み ----------28



©SEIBU Lions/TEZUKA PRODUCTIONS

2025年度のトピックス



1 サステナ車両（8000系）の運行開始について

当社では、環境負荷の少ない他社からの譲受車両「サステナ車両」の第1弾として、小田急電鉄から譲受した車両（8000系）の運行を2025年5月末より開始いたしました。

本車両は、武蔵丘車両検修場にて装置のリニューアル、運転保安装置や外装デザインの変更等を実施したのち、各路線での走行試験や試運転、乗務員訓練を重ね、安全に運行できる体制を整えたうえで営業運転を開始しました。

当社では、新造車両の導入に加えて「サステナ車両」を並行して導入することにより省エネルギー化を加速させ、2030年度までに車両のVVVF化100%達成を目指すことで、安全・快適かつ持続可能な社会づくりに貢献してまいります。





主な取り組みと効果

●サステナ車両の導入

「サステナ車両」とは、他社から譲受したVVVFインバータ制御車両に対する当社独自の呼称です。既存の車両を改修して有効活用することで、環境負荷の低減を図っています。

●安全装置の確実な更新と運行準備

運行開始にあたり、当社線内でも安全にご利用いただけるよう安全装置の更新を確実に行ったほか、試運転と乗務員訓練を実施し、安全確保に万全を期しました。

●省エネルギー化の加速（VVVF化100%へ）

環境に配慮したサステナ車両の導入により、2030年度を目標とする「当社車両のVVVF化100%達成」に向けた取り組みを推進し、SDGsの実現に寄与します。

■法定検査（いわゆる車検に相当するもの）のほか、故障防止対策として装置のリニューアルを実施。

■ATS・列車無線装置・列車情報装置を西武線仕様のものに交換。

■故障防止対策を実施。

■車両検修係員に対し、メンテナンス教育を実施。



安全のナビゲーター　レイルくん スマイルちゃん らびゅーくん



レイルくんプロフィール　こどもの頃から電車が大好きで、いつも見ていたのは西武鉄道の電車。いつだって仲間と共に歩みます。あこがれの特急電車の運転士になるまで、前しか見ません！

らびゅーくんプロフィール　特急ラビューから生まれました。毎日安全に、お客さまを目的地に連れていきたいとがんばっています。僕に会うことが目的になるお客さまがいたら嬉しいな。

スマイルちゃんプロフィール　高校生の頃、幼なじみのレイルくんと行った電車フェスタで見かけた女性駅係員さんにあこがれて西武鉄道に入社。日本はもちろん、海外からのお客さまも笑顔になるようなおもてなしを心がけています。Thank you for using the Seibu Line!

2025年度のトピックス



2 東村山駅付近の新宿線下り線の高架化について

東京都、東村山市と進めている「新宿線、国分寺線および西武園線（東村山駅付近）連続立体交差事業」において、2025年6月29日の初列車より新宿線下り線を高架化しました。

これにより、府中街道をはじめとする4ヵ所の踏切で踏切遮断時間が短縮され、踏切による交通渋滞が緩和されました。特に、府中街道と交差する久米川第2号踏切道では、踏切遮断時間が約3割減少し、踏切による渋滞長が約6割減少するなど、早くも高架化による効果が現れています。

また、連続立体交差事業とあわせて進めているホームドア整備も、新宿線下り線の高架化にあわせて供用を開始し、ホーム上でのお客さまの触車・転落事故を未然に防止するなど、安全性の向上が図られています。

現在の工事進捗状況

新宿線上り線および国分寺線・西武園線の高架化に向け、引き続き高架橋構築工事・鉄道設備工事（軌道・電気工事）を進めています。

高架化後の展望

●東村山駅の乗換の利便性向上

従来の路線別ホームから方向別ホームへと変更することで、新宿線から国分寺線および西武園線へホーム上の乗換が可能となり、お客さまの乗換利便性が向上します。

●交通の円滑化・安全性の向上

踏切による交通渋滞や踏切事故の解消により、道路交通の円滑化が図られるほか、道路と鉄道それぞれの安全性が向上します。

●駅周辺のまちづくり

鉄道の高架化で新たに創出された高架下空間の利活用によって賑わいが生まれ、駅前広場が再整備されることで駅へのアクセス向上や周辺地域の防災性の改善が図られます。

新宿線東村山駅付近連続立体交差事業について
https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/higashimurayama/





安全に関する基本方針

「安全方針」を制定し、全社員へ周知・徹底を図るとともに、安全スローガンや年度ごとの安全重点施策を定め、全社一丸となって安全確保に努めています。



安全方針

私たちは、安全の確保が鉄道事業における最大の責務であることを自覚し、社会や環境の変化に必要な改善を継続的に進め、地域・社会に貢献します。

1. 常に、一人ひとりが安全最優先意識を持って、事業・サービスを推進します。
2. 常に、法令・規則を守り、誠実に職務を遂行します。
3. 常に、事故・災害に備え、人命を第一に自ら考え行動します。
4. 常に、コミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境を構築します。
5. 常に、安全管理体制をチェックし、その向上に努めます。

安全スローガン

責任事故・インシデント「0（ゼロ）」

2025年度 安全重点施策

（1）「安全」を確保し、「安心」を提供する安全対策の継続的な推進

①PDCAを有効活用し、自社に起因する事故「0」・輸送障害の低減
②粗暴行為による列車内傷害事件への対応
③激甚化する自然災害への対応強化・早期復旧にむけた安全対策の推進
④社会環境の変化に伴う設備投資の推進

（2）安全管理体制の強化

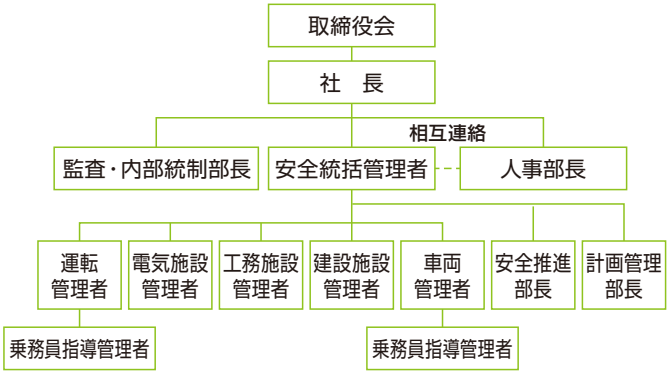
①「危機管理意識」の醸成と共有
②「安全情報」を活用した改善の推進
③デジタル技術の積極的活用

安全管理体制

「安全管理規程」を制定し、輸送の安全を確保するために遵守すべき事業の運営方針、事業の実施および管理体制、方法を定めることにより、安全管理体制を確立して、輸送の安全水準の維持および向上を図っています。



1 安全管理体制



各管理者およびその責務	
社　長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を有する。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	運転に関する事項を管理する。
乗務員指導管理者	運転士・車掌または構内運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
電気施設管理者	鉄道施設に関する事項のうち、電気に関する事項を管理する。
工務施設管理者	鉄道施設に関する事項のうち、土木に関する事項を管理する。（新線建設、連続立体交差化等の大規模工事を除く）
建設施設管理者	鉄道施設に関する事項のうち、土木に関する事項を管理する。（新線建設、連続立体交差化等の大規模工事に限る）
車両管理者	車両に関する事項を管理する。
計画管理部長	鉄道の安全確保に必要な設備投資計画および予算計画に関する事項、鉄道の運行計画に関する事項を管理する。
安全推進部長	鉄道の安全性向上に関する事項を管理する。
人事部長	輸送の安全確保に必要な要員に関する事項を統括する。
監査・内部統制部長	安全管理体制の検証・評価を行うため、社長・安全統括管理者・安全推進部長の責務の遂行状況を確認する。

安全を向上させる取り組み

当社では、安全管理体制のもと、安全に対し計画的に、さまざまな取り組みや見直しを行い、一つひとつのレベルアップを目指しながら、安全性をさらに向上させてまいります。





2 安全管理の方法

1 社長・安全統括管理者などによる積極的なコミュニケーション

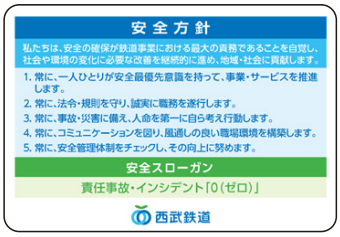
社長や安全統括管理者など経営層が、夏季および年末年始に行われる「輸送の安全確保総点検」の際、現業巡視を行います。そして安全管理状況の確認や意見交換を行い、積極的にコミュニケーションを図っています。


輸送の安全確保総点検


現業社員との意見交換会

2 安全方針カードの作成と唱和

安全意識を浸透させるため、安全方針や行動規範を書いたカードを全社員に配付しています。カードを常に携帯するとともに、点呼時などに唱和を行っています。




安全方針カードの唱和

3 安全に関する会議の開催

●運輸安全推進委員会（月１回開催）

社長をトップに、安全管理規程に記載された各責任者および関係部長で構成される委員会です。安全対策の全般的な策定や、現業社員から寄せられた「安全情報」など、輸送の安全に関わるさまざまな事項を審議しています。

●鉄道安全幹事会（月１回開催）

運輸安全推進委員会の下部組織です。安全推進部長をトップに、関係する部の課長が中心となり、委員会に必要な連絡・調整を行っています。


運輸安全推進委員会

4 鉄道安全監査の実施

輸送の安全確保に関する業務が適切に実施され、安全管理体制が有効に機能しているかを確認するために、内部監査（鉄道安全監査）を年に1回実施しています。2025年度は監査項目を

（1）安全マネジメント全般に関する取り組み状況

（2）重点監査テーマ

①社内・他社で発生した事故やトラブルに関する再発防止のプロセス

②激甚化している自然災害に備えた取り組みと早期復旧に向けた対策強化・安全対策

③「安全情報」の活用による迅速な改善推進状況

④各部のリスク評価で抽出した固有項目

と定め、取り組み状況について確認を行いました。これらの内部監査結果や鉄道本部社員を対象としたアンケート結果、各部の対応などを年度末に総括し、次年度の各施策に反映させています。


鉄道安全監査

5 協力企業との連携

当社線で作業に従事する協力企業と一体となって輸送の安全を確保するため、当社役員と協力企業社員との意見交換を実施しています。



協力企業との意見交換会

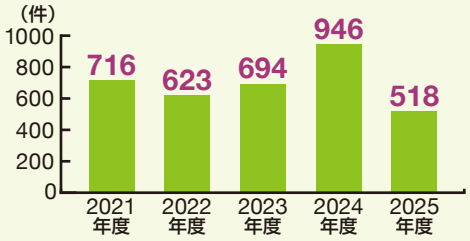
6 「安全情報」の収集・活用

現業係員が事故につながる恐れを感じた事象を収集していた「事故の芽情報」は、2025年度より「安全情報」へ名称を変更しました。新システムの導入により、従来のヒヤリ・ハットなどの事象に加え、収集した情報は分析・対策を講じたうえで社内ポータルサイトに掲載・共有し、さらなる安全性の向上に活用しています。

「安全情報」の提出
↓
担当部にて報告された事象の調査および対策の検討
↓
安全推進部で情報の集約 リスク評価などの分析
↓
運輸安全推進委員会等で報告された事象と対策について審議
↓
提出者へ結果をフィードバック

過去5年間の安全情報提出件数の推移

※2025年度の件数にはSafety-IIを含みます。



注目!

「成功体験(Safety-II)」も共有!

これまでの「ヒヤリ・ハット」に加えて、事故を未然に防いだ「成功体験」もみんなで共有できるようになりました! うまくいくことをもっと増やして、さらに安全な西武鉄道を目指します。

(2025年度 Safety-II 報告件数:12件)



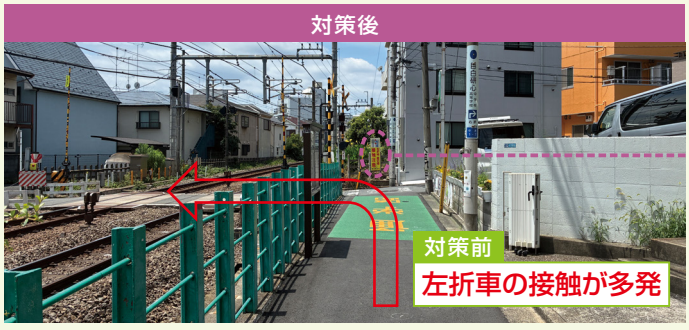
対策事例 中井第2号踏切道　車両への注意喚起

安全情報

車両が左折時に踏切誘導柵を破損した。

対 策

車両に対する注意喚起看板の設置を実施し、踏切誘導柵の破損に起因する輸送障害の未然防止。





安全確保のための取り組み

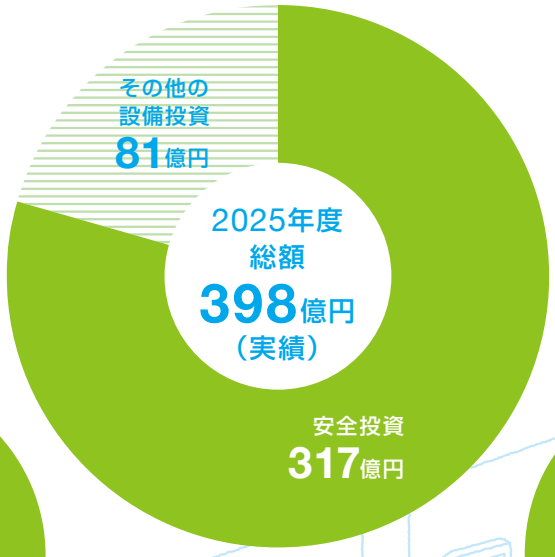
輸送の安全を確保するため、当社ならびに他社の過去の事故事例や
お客さまの声などを参考にさまざまな安全対策を進めています。

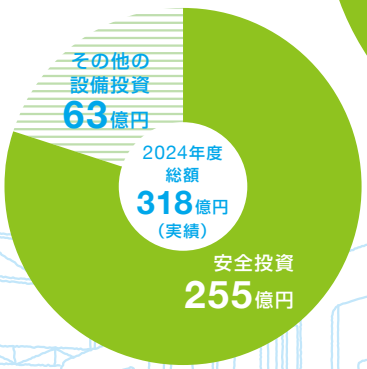


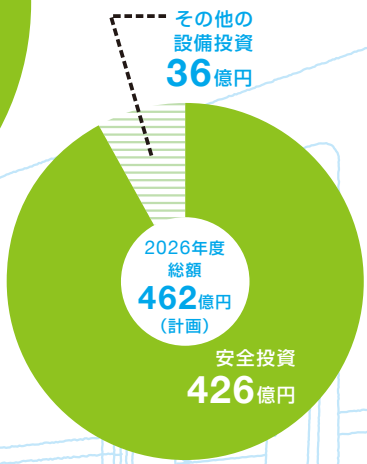
1　安全投資について

当社では設備の安全性向上のため、鉄道事業における設備投資の大半を安全投資に充て、継続的な強化を図っています。2024年度は255億円（総額318億円）、2025年度は317億円（総額398億円）を安全投資に充てました。2026年度は総額462億円のうち、さらに規模を拡大し426億円を安全投資に充てる計画です。









2 2025年度の安全重点施策と進捗状況



PDCAを有効活用し、自社に起因する事故「0」・輸送障害の低減	●2024年12月、小手指車両基地構内において、入換車両と洗車台の接触という自社に起因する事故が発生しました。今後、運転無事故を達成するため、PDCAを有効活用した原因分析、再発防止策を策定・実施し、自社に起因する事故「0」の達成や輸送障害の低減を目指していきます。
粗暴行為による列車内傷害事件への対策	●ホームや列車内での粗暴行為からお客さまや係員を守るため、車内には車内防犯カメラを設置、各列車の乗務員室には防護盾、防刃手袋、各駅には警棒、防護盾およびさすまたを配備しています。また、粗暴行為が発生した場合、適切な行動が取れるように教育、訓練を実施して対応力の向上に努めています。
自然災害の被害軽減に向けた安全対策の推進	●桜台～中村橋駅間の高架橋耐震補強や、西吾野駅構内および西吾野～正丸駅間での落石防護工事を実施しました。地震や近年多発する異常気象などの自然災害に対し、被害を未然に防ぎ軽減できるよう、今後も安全対策を推進してまいります。
安心を提供するための感染症対策の推進	●新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、当社では「新型インフルエンザ等対策業務計画」を策定しています。新型インフルエンザ等の感染症が発生した時でも、国民生活や国民経済への影響が最小となるよう業務の継続に努めます。
「危機管理意識」の醸成と共有	●事故や災害が発生した場合、迅速かつ適切な行動が取れるように、教育、訓練を実施して「危機管理意識」を醸成するとともに、組織対応力の向上に努めています。
「安全情報」を活用した改善の推進	●「安全情報」へ名称変更した本年度は、新システムにより従来の「事故の芽」に加え、事故を防いだ成功体験（Safety-II）も共有可能となりました。収集情報は分析・対策のうえ各部へ展開し、引き続き輸送の安全確保に向けて取り組んでまいります。
安全に関する内部監査の強化	●有効性と適合性の視点に基づいた監査を実施するとともに、監査で得られた知見を社内関係各部署間で情報共有するなど、連携をさらに強化しました。また、「運輸安全マネジメント研修（内部監査員研修）」を受講し、内部監査のさらなる充実を図っています。
デジタル技術の積極的活用	●VR（Virtual Reality）教材による安全体感教育を取り入れるとともに、業務にAIを活用しています。トラブル発生時には業務用タブレットを用いてリアルタイム映像を共有し、迅速な復旧に努めています。



3 主な安全対策

ホームの安全対策

当社では、ホーム上の安全対策（ハード対策）として主に以下の内容について実施しています。

1 ホームドアの整備

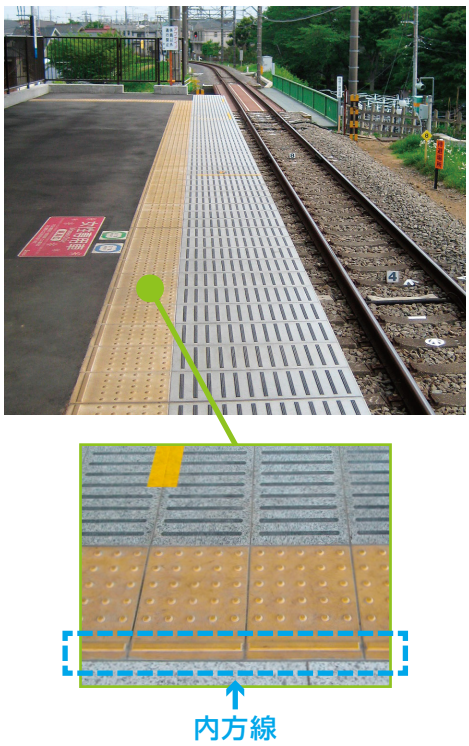
ホーム上からの転落や列車との接触を防止するため、ホームドアの整備を進めています。池袋駅（2～6番ホーム）、練馬駅、西武新宿駅、高田馬場駅、所沢駅、国分寺駅などに設置が完了しており、2025年度には、保谷駅と新所沢駅においてホームドアの使用を開始しています。当面の計画として、池袋～小手指駅間、西武新宿～新所沢駅間、小平～玉川上水駅間、豊島線、西武有楽町線の各駅を対象に、2030年代半ばまでを目標にホームドアの整備を進める予定です。



所沢駅ホームドア

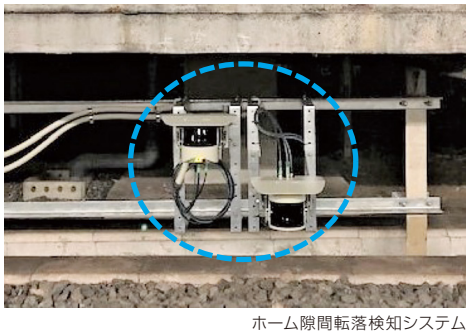
2 内方線付き点状ブロックの整備

目の不自由な方がホームの安全な位置を認識できるよう、ホーム上に内方線付き点状ブロックの整備を進めています。2025年度には正丸駅での整備が完了しました。2026年3月現在、全92駅中91駅で整備が完了しており、未整備の駅については、今後ホーム改修工事に併せて進めてまいります。また、1日あたりの乗降人員が2,000人以上の駅については、すべて整備が完了しています（ホームドア設置駅を含む）。



3 ホーム隙間転落検知システムの整備

曲線ホームにおいて、列車とホームの隙間に転落したお客さまを検知するシステムを稲荷山公園駅（1番ホーム）、新井薬師前駅（1番ホーム）、萩山駅（3番ホーム）に整備しています。



ホーム隙間転落検知システム



ホームの安全対策



ホーム下待避スペース
万が一、お客さまが転落しても安全が確保できる待避スペースを設けています。一部のホームで線路の外側に待避場所がある駅には、案内板を設置しています。

非常停止ボタン
お客さまが転落するなど危険な状況を発見した際に押す「非常停止ボタン」を設置しています。

乗降監視用テレビ
乗務員が安全確認をする補助として設置しています。

足元注意喚起灯
列車とホームの隙間が広い萩山駅、新井薬師前駅では、列車が近づくと点滅し、お客さまの乗降の際、注意を促す足元注意喚起灯を設置しています。

CPライン
色彩心理学「Color Psychology＝CP」を活用した、ホーム端部への塗色を一部の駅で行っています。

列車進入警報装置
列車が駅に近づくと、線路脇にある黄色の回転灯と音でお知らせします。

音声転落防止装置
ホームからの転落や接触事故を防止するため、自動放送により注意を促す装置。曲線のホームに設置しています。

転落防止ゴム
車両とホームの隙間が広い稲荷山公園駅、大泉学園駅などでは、ホームの一部に隙間を埋めるくし型状のゴムを設置しています。



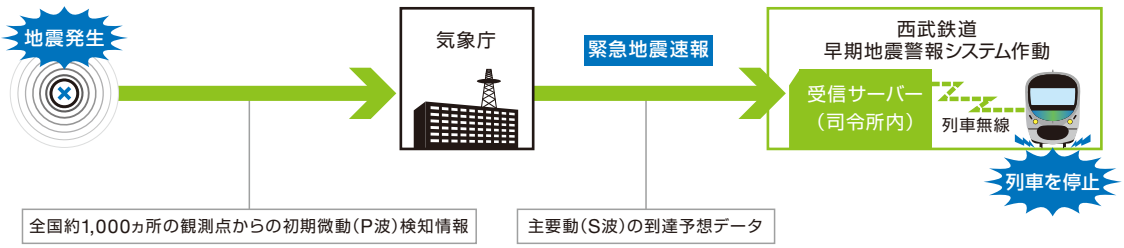
地震対策

早期地震警報システム・地震計

沿線に地震計を設置し、早期地震警報システムを導入しています。このシステムは、気象庁の緊急地震速報と当社の地震計の情報をもとに判断するものです。震度4以上の地震が発生するとの情報を受信したとき、列車無線へ、自動的に音声で警報を送ります。受信した乗務員は、列車を安全な場所へ停止させます。



左：早期地震警報システム 右：地震計



雷対策

雷（誘導雷）による被害を抑えるため、電線の最上部には架空地線を、電線および車両には避雷器を設けています。また、一部の変電所や信号機器室近傍には極性反転型避雷針を設けて落雷を抑制しています。

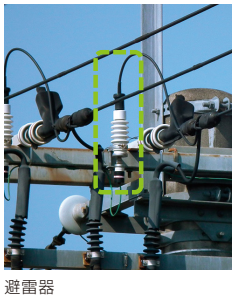


極性反転型避雷針

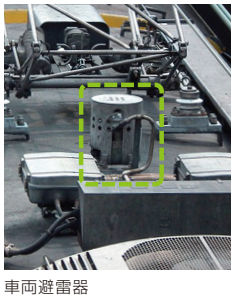


避雷装置（遠景）





避雷器



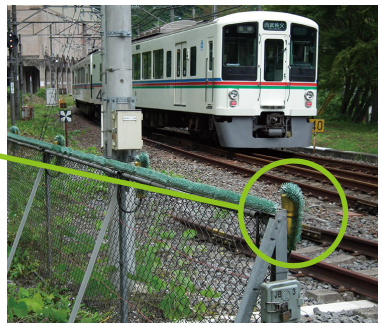
車両避雷器



その他の自然災害対策

風速計、雨量計、積雪量計を沿線に設置し、基準値を超えた場合、徐行または運転を中止します。また、落石の危険がある場所には、土砂崩壊検知装置を設けています。さらに、冠水、土砂災害、積雪災害の履歴がある箇所に監視カメラを設置しています。





土砂崩壊検知装置

雨量計・積雪量計

全線において自動的に降雨・積雪量を記録する
雨量計：16ヵ所設置
積雪量計：16ヵ所設置



監視カメラ

積雪状況を把握できるよう、西武秩父線に4ヵ所設置



風速計

橋や高架橋など全線の13ヵ所に設置



司令（5部門）

①運転関係の指令業務を行う運転司令
②電気関係の指令業務を行う電気司令
③工務・建設関係の指令業務を行う施設司令
④車両関係の指令業務を行う車両司令
⑤お客さまの案内・情報収集を行う情報司令



基準以上になると徐行または一時運転見合わせ

地震計

沿線の各地区に4ヵ所設置



車内ビジョン



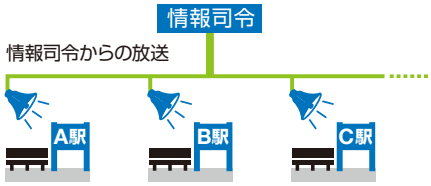
X（旧Twitter）

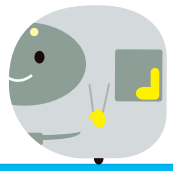


列車運行情報提供システム



遠隔放送装置







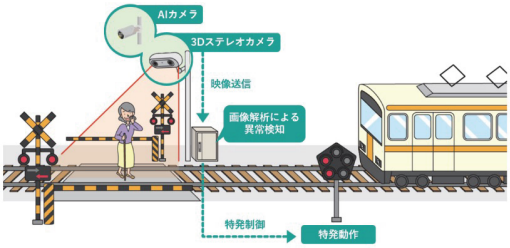
踏切の安全対策

踏切での事故防止のため、当社ではさまざまな設備を設置しています。

オーバーハング型警報機
遠くからも踏切の存在が分かるよう、高い位置に警報機を設置しています。

全方向踏切せん光灯
どの方向からも見やすい踏切せん光灯の導入を進めています。

歩行者の安全対策
AIや3D画像解析により踏切内の異常（主に「人」の滞留）を検知するシステムや、踏切内で転倒した人など低い位置での異常を検知しやすい踏切支障検知装置の整備を進めています。また、歩行者が踏切内に閉じ込められてしまった場合に、遮断かんを手で押すことで容易に脱出できるようにする屈折式遮断かんを設置しています。



遮断かんと特殊信号発光機との連動化
車や自転車などが支障して踏切遮断かんが降下完了できない場合に作動するシステム。特殊信号発光機（緊急停止信号）と連動し、列車に対して停止信号を発信します。

看板の設置



踏切支障検知装置
車などが踏切内に立ち往生したことを検知し、踏切に接近する列車に対し迅速に緊急停止信号を発信する装置で、241踏切に設置しています。従来はレーザー光線網により検知していましたが、より検知能力の高い支障検知装置を97踏切に設置し、運用を開始しています。



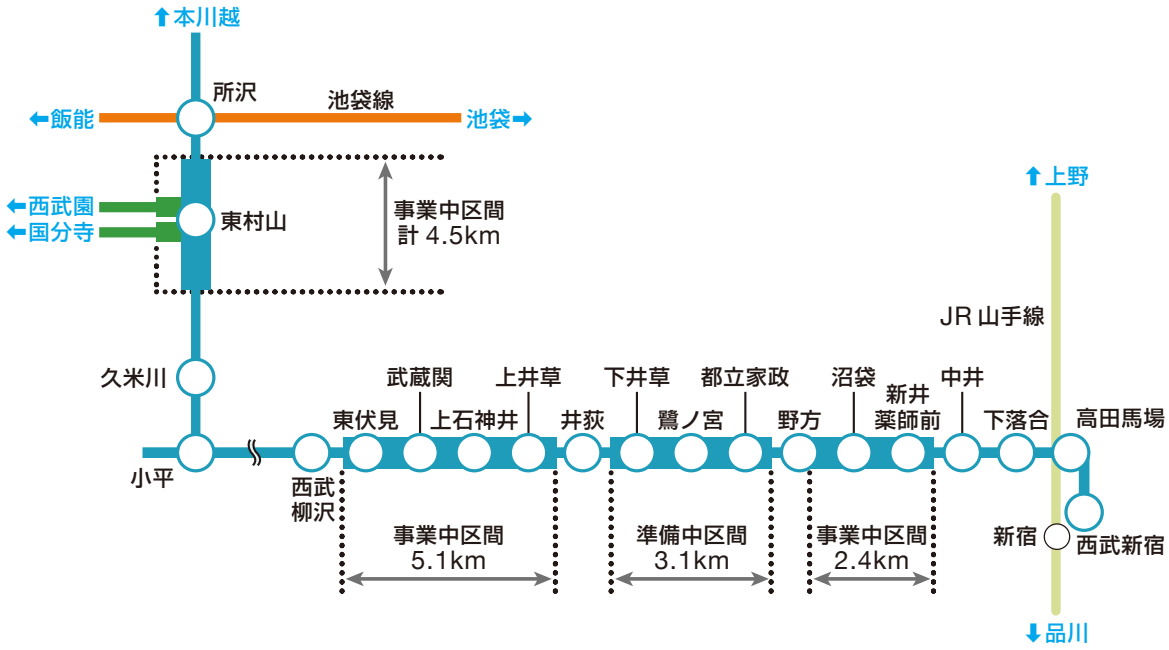
踏切支障報知装置（非常ボタン）
異常時に押すことで、列車に対し停止信号を発信します。



連続立体交差事業の推進

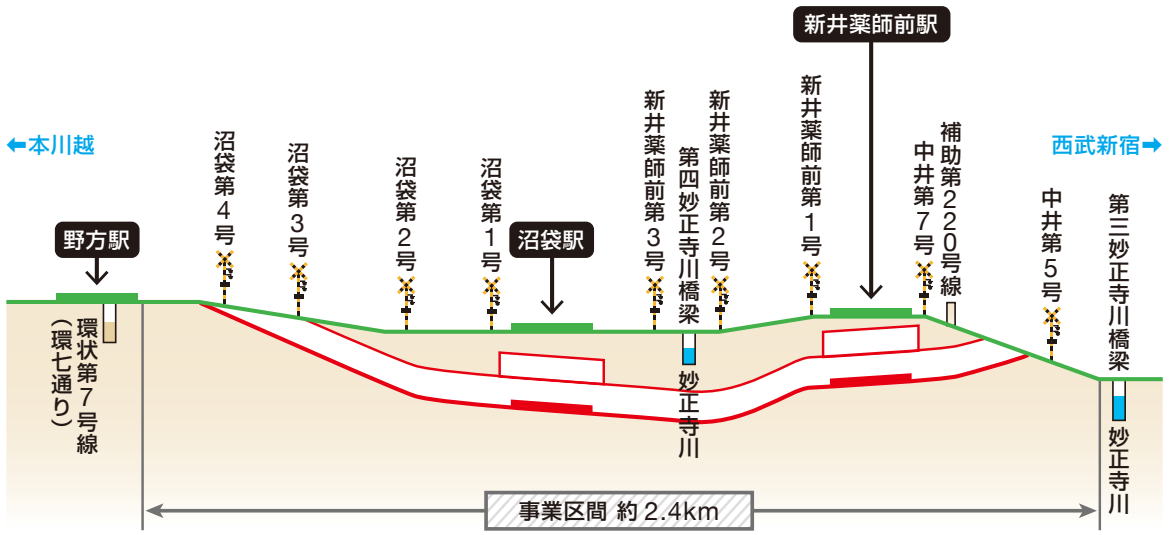
道路と鉄道が交差する踏切での事故を防止し、安全性を高めるため、連続立体交差事業を進めています。事業が完成すると踏切での慢性的な交通渋滞が解消し、道路と鉄道の安全性が向上します。また、鉄道により分断されていた地域の一体化が図られるとともに、駅前広場などの整備が促進され、安全で快適なまちづくりにも寄与します。

●新宿線の連続立体交差事業



●中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）

2014年1月に工事着手し、完成すると7ヵ所の踏切がなくなる予定です。

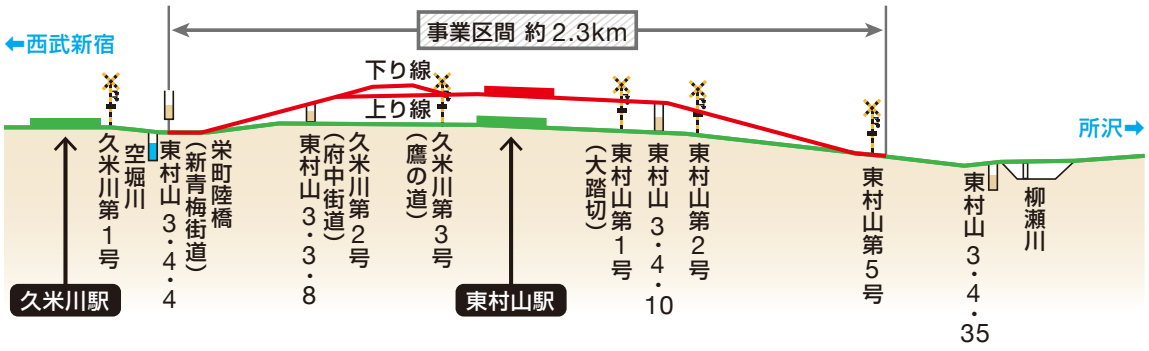




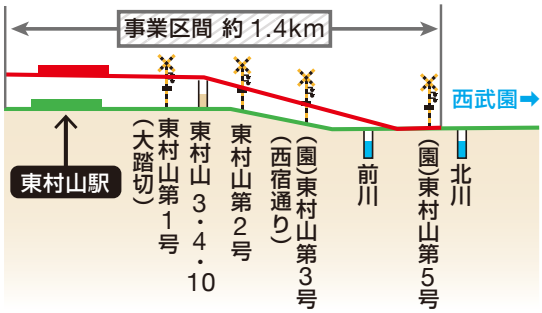
●東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）

2015年1月に工事着手し、完成すると5ヵ所の踏切がなくなる予定です。
2025年6月29日に新宿線下り線を高架化しました。

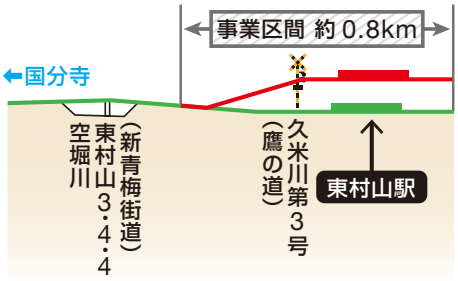
●縦断図（新宿線）



●縦断図（西武園線）

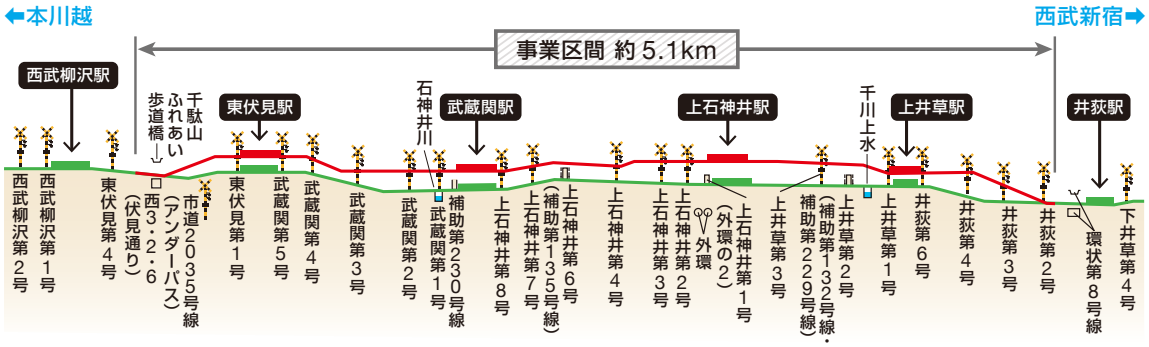


●縦断図（国分寺線）

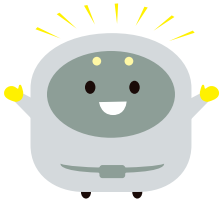


●井荻～西武柳沢駅間連続立体交差事業（高架化）

2021年11月、東京都により高架方式で都市計画が決定し、
2024年3月に事業認可され、完成すると19ヵ所の踏切がなくなる予定です。



このほか、野方～井荻駅間は2016年3月、東京都により新規に着工を準備する区間として社会資本総合整備計画に位置付けられました。引き続き、連続立体交差事業の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し、新宿線沿線の安全性・快適性向上を推進します。



人身事故・踏切事故対策

事故防止対策のため、以下のような取り組みを行っています。
（一部、埼玉県自殺対策強化事業補助金を活用し、実施しています）

1 「いのちの電話」看板の設置

自殺予防の一環として、一般社団法人「日本いのちの電話連盟」のご協力を得て、主な踏切や駅ホームに、相談窓口の看板を設置しています。



「いのちの電話」看板

2 各種キャンペーンの実施

事故を未然に防止するため、全国交通安全運動期間中やイベントにおいて、駅ホームや車内、踏切に設置された各非常ボタンを、お客さまに緊急時にご利用いただけるようPR用グッズの配布や事故防止啓発ポスターを掲出しています。また、イベント開催時には、車内非常通報ボタンを多くのお客さまに知っていただくため、模擬装置を使用した操作体験を実施しています。



各種キャンペーン

3 青色照明の設置

自殺防止に効果があるといわれている青色照明を一部の踏切およびホーム端に設置しています。


青色照明

4 安全パトロール・ガードマンによる警備

ホーム上での事故を防止するため、安全パトロール員（当社OB）とガードマンが巡回警備を行っています。



安全パトロール

テロ対策

鉄道におけるテロ対策として、駅・車両基地などに防犯カメラを設置。2025年度は301台増設し、計2,554台設置しています。また、不審物警戒のため、警戒腕章を着用しての巡視を行っています。さらに、車内の防犯対策・安全性向上のため、車内防犯カメラの整備を推進してまいりましたが、2025年度末に100％達成しました。


巡視の様子


車内防犯カメラ（通信式カメラ）



エレベーター・エスカレーター前の注意喚起

エレベーターやエスカレーター、ホームにおける事故を防止するため、さまざまな取り組みを行っています。



ホーム上に傾斜があることを周知するため、エレベーター入り口付近に、当社のキャラクター・レイルくんとスマイルちゃんのステッカーを貼っています。





4 安全教育

1 駅・係員の教育

●ユニバーサルマナー検定（鉄道）

これまで以上にお客さまの安全・安心を守ることを目指し、「ユニバーサルマナー検定（鉄道）」を株式会社ミライロと共同開発しました。障がいのある方やご高齢の方のお困りごとや適切なサポート方法などを、鉄道利用の場面を想定して学ぶ実践的なプログラムです。2023年3月から主に駅係員を対象に受講を開始しています。



ユニバーサルマナー検定（鉄道）

2 乗務員養成教育

●運転士・車掌の養成

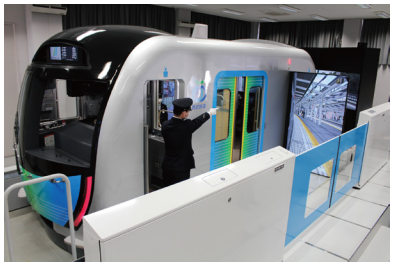
国土交通大臣の指定を受けた運転士の養成施設として「西武鉄道係員養成所」があります。お客さまの命を預かる運転士や車掌は、ここで安全運行に必要な講習および試験を受けています。2025年度は運転士34名、車掌64名を養成しました。

車掌	駅係員から車掌見習登用試験	→ 学科講習（約1ヵ月間）	→ 学科修了試験	→ 実務講習（約2ヵ月間）	→ 実務修了試験	→ 合格後単独乗務
運転士	車掌経験者から運転士見習登用試験	→ 学科講習（約4ヵ月間）	→ 学科修了試験	→ 技能講習（約4ヵ月間）	→ 技能修了試験	→ 合格後免許交付・単独乗務



●再教育・既成乗務員研修

乗務員は、単独乗務後も管理者による定期的な添乗指導のほか、運転士は1・2・3・5・10年目、車掌は1・2・5年目に安全意識と知識、技能の向上を目的とした再教育を受けています。また、異常時における処置能力の向上を目的に、シミュレータなどを活用した研修（既成乗務員研修）を随時行っています。



3 事故を風化させない取り組み

●安全共育室

研修センター内に、過去に発生した鉄道事故の情報を展示、社員教育を行う「安全共育室」を設置しています。安全最優先意識の浸透を図るため、「安全」への理解を深めることを目的とした教育を実施しています。2025年度は全社員を対象に「輸送の安全教育」を実施し、理解度98.5％を達成しました。（教育施設のため、一般公開はしていません）





安全共育室

●安全輸送推進週間

田無事故が発生した3月23日を「輸送の安全を考える日」とし、その日を含む1週間を「安全輸送推進週間」としています。2025年度は「輸送の安全講演会」、および安全輸送推進標語の社内募集・ポスター掲出を行い、輸送の安全確保に関する意識の向上を図りました。

●安全・安心ポータルサイト

社内限定のポータルサイトに、安全に関するページを設けています。過去に発生した事故や災害を振り返る「過去の事故カレンダー」、「安全情報」などを掲載しています。これらを朝の点呼（朝礼）時や教育の場などで活用し、日頃から安全意識の向上を図っています。



工務部技能競技会



車両部業務研究発表会

4 技術の向上・安全意識の向上のための取り組み

～業務競技会・小集団活動・業務研究発表会・技能競技会～

現業の各職場では、技術および安全意識の向上を目指し、さまざまな取り組みを行っています。各部門別・職種ごとに業務競技会、小集団活動や業務研究発表会、専門技術を競う技能競技会を実施。技術のレベルアップと安全性向上に励んでいます。



業務競技会



電気部技能競技会



5 緊急時対応訓練

1 総合復旧訓練

9月の防災週間では、各部ごとに防災訓練を行うとともに、毎年秋には、大規模な災害・事故を想定した総合復旧訓練を実施しています。2025年度は「多摩東部を震源とする「震度6弱」の地震により、新宿線 所沢～航空公園駅間で列車が脱線。車内では多数のけが人が発生し、重傷者も出ている。」と想定し、災害対策本部と被害者支援室の設置および人命救助訓練、鉄道本部各部の異常時対応訓練を実施しました。また、駅まちレジリエンス活動として、帰宅困難者に対し、駅備蓄品の配布訓練を初めて実施しました。この総合復旧訓練は、事故発生時の復旧作業における技術の向上、さらなる安全意識の高揚を図ることを目的としています。

訓練の全体図





2 各種訓練の実施

過去に発生した事故や他社で発生した事故の教訓を活かし、さまざまな訓練を行っています。





列車防護訓練の様子

1 異常時訓練

事故・異常時に列車を止める訓練および迅速かつ正確な報告を実践させる教育を行っています。また、車内で粗暴行為・列車火災等の緊急事態が発生したことを想定し、地上へお客さまを避難させる訓練を実施しています。





避難誘導訓練の様子

2 過去の事例を受けた訓練

過去に発生した事故・トラブルなどを受け、さまざまな訓練を実施。トロリ線断線復旧訓練・倒木伐採訓練・列車脱線復旧訓練などを行っています。



列車脱線復旧訓練の様子

3 帰宅困難者訓練への参加

内閣府や各自治体が実施している自助・共助・公助の一環として帰宅困難者訓練などに参加・協力をしています。

●安全確認方法の整備

建物安全確認チェックリストの作成・配備

●外部連携等

自治体や帰宅困難者協議会等との連携・訓練の実施



帰宅困難者訓練の様子



外部連携訓練の様子

4 鉄道施設におけるテロ対応訓練

警察署と合同で粗暴行為発生時における対応訓練を実施しています。



粗暴行為対応訓練の様子

5 BCPの策定と訓練の実施

今後、発生する恐れのある都心南部直下地震および多摩東部直下地震発生時に迅速にお客さまや社員の安全確保を行い、早期の事業復旧を図るためのBCP（事業継続計画）を定め、定期的な訓練を実施しています。



BCP発動訓練の様子

2025年度 鉄道事故等に関するご報告

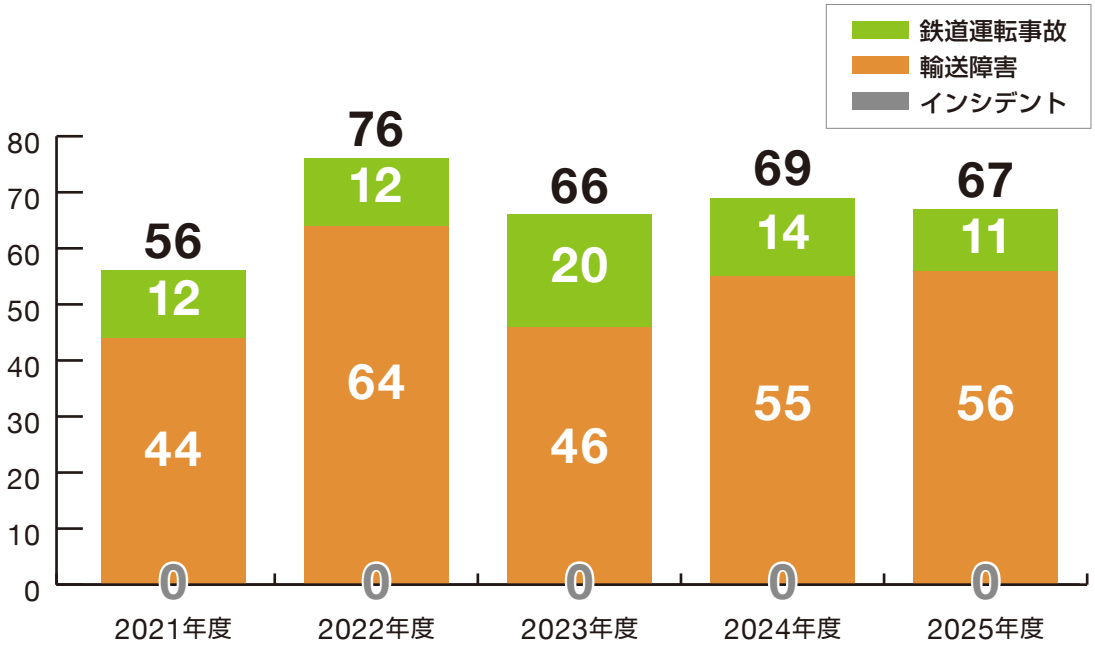
安全を最優先に事業を進めていますが、不慮の事故や災害などでお客さまにご迷惑をおかけいたしました。
今後も安全性を向上させるべく、さまざまな施策を積極的に講じてまいります。

※国土交通省令の「鉄道事故等報告規則」に基づき（2026年4月報告時点）、件数を発表しています。国土交通省関東運輸局に届け出たものを掲載しています。

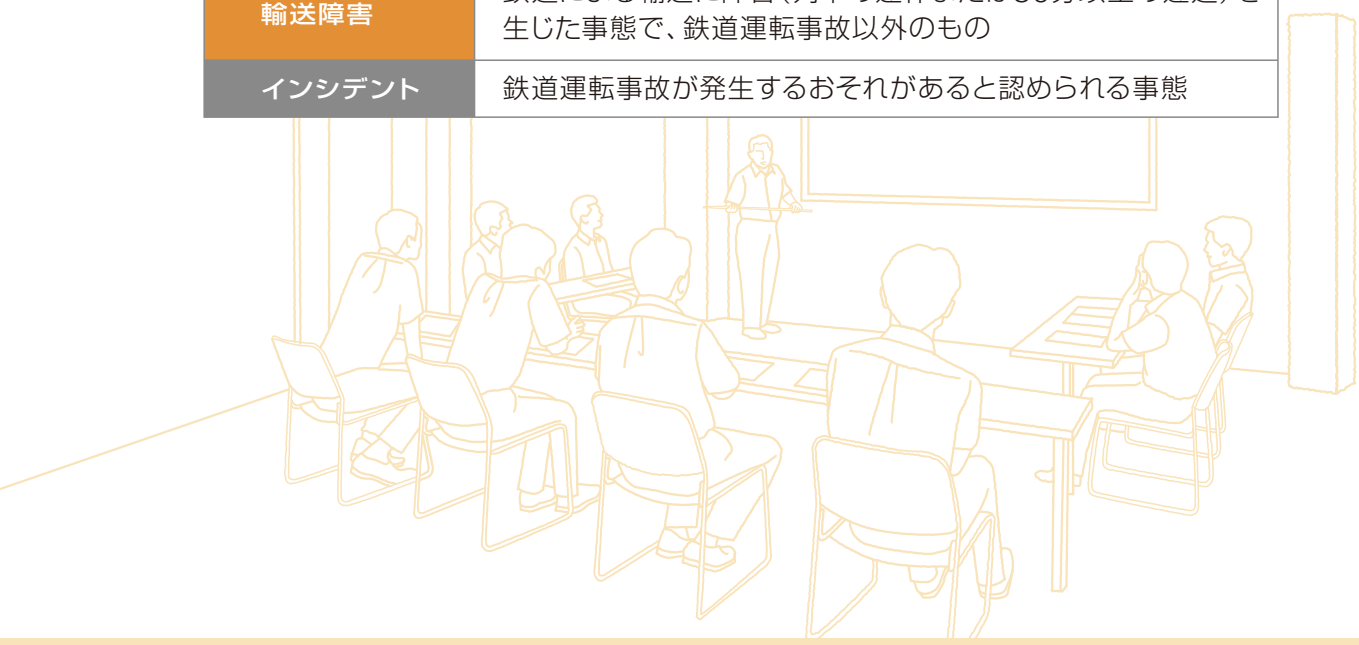


1 事故などの発生件数の推移

2025年度は、鉄道運転事故が11件（対前年3件減）、輸送障害が56件（対前年1件増）発生しました。また、前年に引き続きインシデントの発生はありませんでした。



鉄道運転事故	列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故
輸送障害	鉄道による輸送に障害（列車の運休または30分以上の遅延）を生じた事態で、鉄道運転事故以外のもの
インシデント	鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態



2 鉄道事故等の発生について

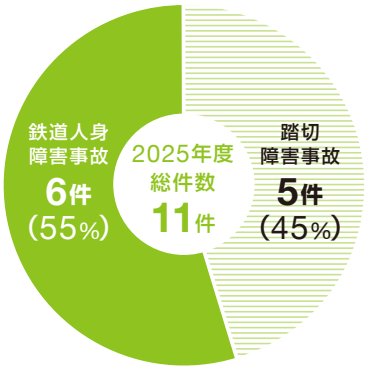


鉄道事故の発生原因の内訳として第三者（旅客、公衆）によるものが多数を占めています。自殺防止対策として自殺防止看板の設置や青色照明、駅ホームにおける安全パトロール員（当社OB）とガードマンによる巡回警備などを行っています。
また、2025年度は、車両および設備の不具合による輸送障害が昨年度より増加し、ご迷惑をおかけいたしました。引き続き、点検・整備等を強化し、安全性の向上に努めてまいります。

●鉄道運転事故の内訳と発生原因

2025年度は11件の鉄道運転事故が発生し、内訳は下記の通りとなりました。また、すべて「第三者によるもの」が原因でした。

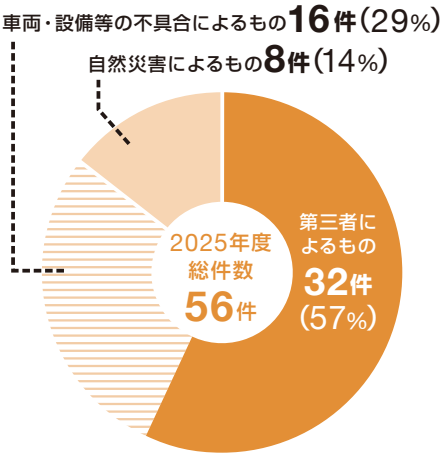
踏切障害事故	5件（対前年2件減）
鉄道人身障害事故	6件（対前年1件減）



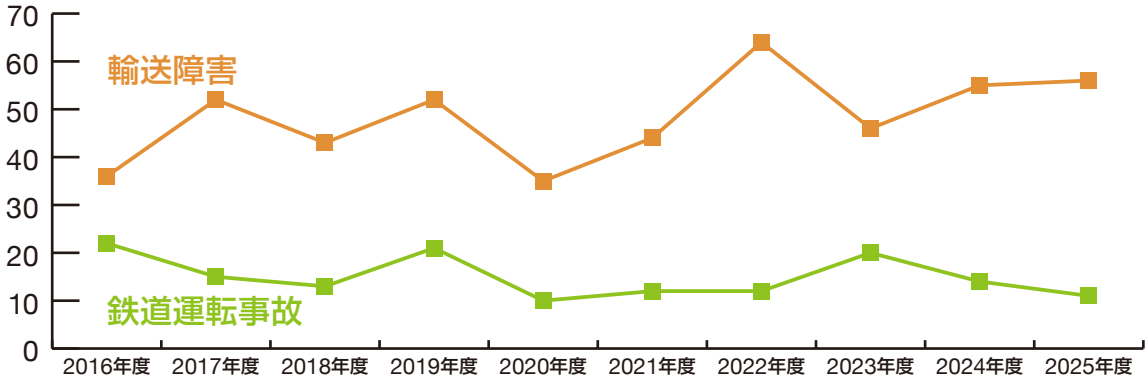
●輸送障害の発生原因

2025年度は56件の輸送障害が発生し、そのうち32件は「第三者によるもの」が原因でした。

第三者によるもの	32件（対前年8件減）
車両・設備等の不具合によるもの	16件（対前年11件増）
自然災害によるもの	8件（対前年2件減）



●鉄道運転事故と輸送障害の件数の推移



お客さま･地域の皆さま･関係機関の皆さまとともに

安全確保のため、お客さまや地域にお住いの皆さま、関係機関との連携が欠かせません。
本章では、西武鉄道とお客さまとの安全に関する活動などについて、ご報告いたします。



お客さま・地域の皆さまへの安全に関するPR活動

1 西武線アプリ

お客さまが西武線を便利に快適にご利用いただけるツールとして、スマートフォン用公式アプリ「西武線アプリ」を配信しています。最新の運行状況や列車の走行位置、ならびにベビーカースペースなどの車両設備情報や、西武バスの位置情報などを分かりやすく表示しています。また当社Webサイト「大規模地震への備え」のリンク先も掲載しています。
そのほか、チケットレスサービス「Smooz」で特急券・指定券の購入や「おでかけ」画面から当社やグループ施設等のチケット購入ができるほか、スタンプラリーなど楽しいイベントもご利用いただくことができます。

西武鉄道
西武線アプリ アイコン



※iOS、Android OSに対応
※日本語・英語・中国語・韓国語に対応

西武線アプリのインストールはこちら➡

iPhone　Android

2 広報誌「Mottoかわら版」

毎月1日に発行している「Mottoかわら版」では、安全に関するさまざまな設備や取り組みについて、随時ご紹介しています。

西武鉄道かわら版
https://www.seiburailway.jp/company/kawaraban/





3 YouTube「西武鉄道公式チャンネル」

「鉄道の仕事密着」や「連続立体交差事業」など、西武鉄道に関する情報や取り組みなどを動画でお伝えしています。

西武鉄道公式チャンネル

https://www.youtube.com/@seiburailwayofficialchanne6617



4 駅まちレジリエンス

当社線をご利用のお客さまや地域にお住まいの方、帰宅困難者等へ「安全・安心」を提供すべく、「駅まちレジリエンス」をテーマとした施策を展開しています。その一環として、定期的に発災時を想定した駅施設の被害状況把握や各種サービス提供手順の確認を行い、対応力の強化を図っています。



災害発生後に駅で提供するサービス	
（小竹向原を除く）全駅	●トイレ開放　●緊急時駅周辺情報マップの掲示 ●「震災時対応マップ」の配布
立ち寄りサービス	●飲料水の配布　●スマートフォンの充電 ●駅ナカコンビニ「トモニー」の商品一部提供
一時待機サービス	●防災用備蓄品セット（水、軽食、防寒アルミシート）の配布 ●一時待機スペースの提供

※駅によって提供するサービスは異なります。



●帰宅困難者対策の連携協力に関する自治体との協定締結および各種訓練への参加・協力

豊島区・西東京市・東久留米市・所沢市との間で、帰宅困難者対策の連携協力に関する協定を締結しています。また、沿線自治体などが主催する帰宅困難者訓練等にも参加・協力しています。2026年1月14日には、所沢駅周辺帰宅困難者対策協議会（所沢市）と合同で訓練を実施しました。本訓練では、大規模地震の発生に伴う鉄道の運行見合わせを想定し、所沢駅南口改札付近に滞留する帰宅困難者を一時滞在施設（西武第二ビル）へ誘導し、受け入れるまでの一連の手順を確認・共有しました。



各駅に配備している備蓄品

●災害時要配慮者への備蓄品の配備

震災などの大規模災害が発生した際、必要となる備蓄品を各駅に配備しています。ご高齢の方や乳幼児・妊娠されているお客さまなどをはじめとした、災害時要配慮者にご提供する飲料水などを備蓄しています。※駅ごとに備蓄数は異なります。



5 「SEIBU BLUE ART STATION」 ～はじまりはBLUEから～

アートを介して各駅や周辺地域の可能性や魅力をお届けし、駅をご利用いただくお客さまに地域への愛着を持っていただきたいという想いから、2024年度より実施しています。新桜台駅、武蔵藤沢駅、航空公園駅、入曽駅で制作を行いました。



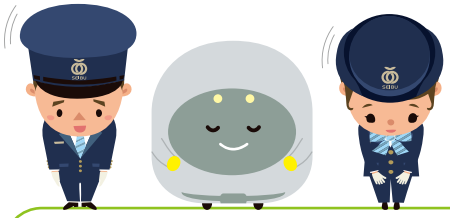


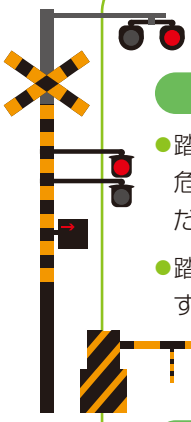
6 西武鉄道公式キャラクター「レイルくん」「スマイルちゃん」「らびゅーくん」によるPR

当社の公式キャラクター「レイルくん」「スマイルちゃん」「らびゅーくん」によるPRを行っています。また、告知ポスターや各種制作物にも親しみやすいイラストで登場。着ぐるみも制作し、各種イベントで活躍しています。



PR活動





西武鉄道より、皆さまへ安全のためのお願い

踏切では

- 踏切で警報が鳴り出してからの横断は非常に危険です。無理をせず余裕を持って横断してください。
- 踏切や線路に石などを置く妨害行為は犯罪です。絶対におやめください。

事故の時には

- 非常時に係員の指示なく線路内に降りることは、ほかの列車などに接触することや、転んで思わぬ怪我をすることもあり、大変危険です。係員が安全を確保し、ご案内いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

電車を利用するときは

- ホームや車内などで危険な状態を発見されたときは、お近くの「非常ボタン」を押してください。



- スマートフォンを見ながらの「ながら歩き」はお客さま同士の接触や、ホームからの転落の恐れがありますので、絶対におやめください。
- ホームには、雨が降ったとき水溜りになるのを防ぐため、傾斜が設けてあります。車イス・ベビーカー・シルバーカーなどをご利用のお客さまは必ず、ブレーキをかけて列車をお待ちくださいますようお願いいたします。

環境への取り組み

西武鉄道では、西武グループ環境方針に基づき鉄道事業者として
持続的な社会づくりへ貢献するために、さまざまな取り組みを行っています。



1 西武グループ環境方針

この方針は、西武グループ各社が、グループビジョンの実現を目指し、サステナビリティアクションとしてマテリアリティに掲げる環境課題に対応する取り組みを積極的、具体的かつ体系的に推進することで、社会課題解決に貢献することを目的とする。

1 温室効果ガス削減などによる気候変動緩和

省エネルギー設備や車両の積極的導入、運用方法の工夫に加え、再生可能エネルギーの活用などを通じて、気候変動の原因となる温室効果ガスの排出削減に努めます。

2 廃棄物の削減・資源有効活用などによる循環型社会への貢献

循環型社会への貢献を目指し、使用する資源の削減を図るほか、リユース、リサイクルなどにより廃棄物の削減に努めます。また、使用する資源についても環境に配慮した資源の活用を進めます。これらの取り組みにより、環境に及ぼす影響の低減・回避を目指します。

3 安全な水資源の確保

水資源を生物の生存に不可欠な資源と認識し、水使用量の低減に努めます。また、事業エリアにおける水源地保護に努めるほか、排水についても汚染防止に向けた取り組みを行い、安全な水資源の確保に努めます。

4 森林や生物多様性の保全

沿線および事業エリアを中心に、森林を守り、増やす活動を行うことで森林保全に努めるとともに、生物の生息環境を守ることで生物多様性にも貢献します。また、ネイチャーポジティブの実現に向けて、ネガティブな影響を回避・最小限に抑え、ポジティブな影響を最大限広げられるように取り組みます。

5 地域や関係者との共生

環境に関する各取り組みを推進するにあたり、地域事業者や協力企業（お取引先）など各種ステークホルダーとのコミュニケーションを積極的に図り、力を合わせ環境保全に関する取り組みを進めます。

6 環境法令の遵守・環境保全意識の向上

各事業に関連する環境法令を遵守するほか、環境保全への意識を高めるため、従業員や協力企業への環境に関する啓発・教育を進めます。

7 環境目標の設定と継続的改善

環境活動を着実に進めるため、環境目標を設定し取り組みを進めるとともに、適切な目標管理に向け継続的な見直しと改善を行います。



2 鉄道事業におけるエネルギー投入量とCO_2排出量

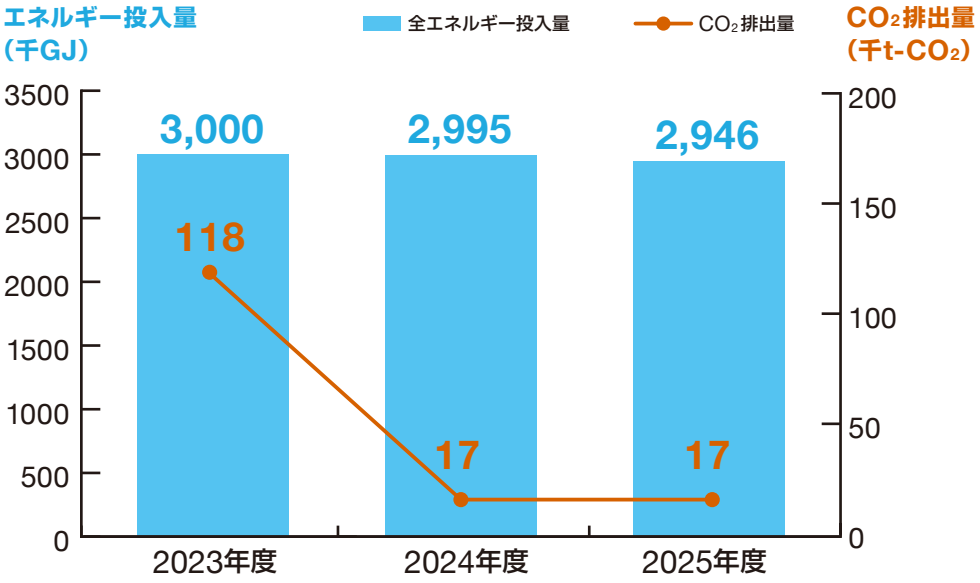


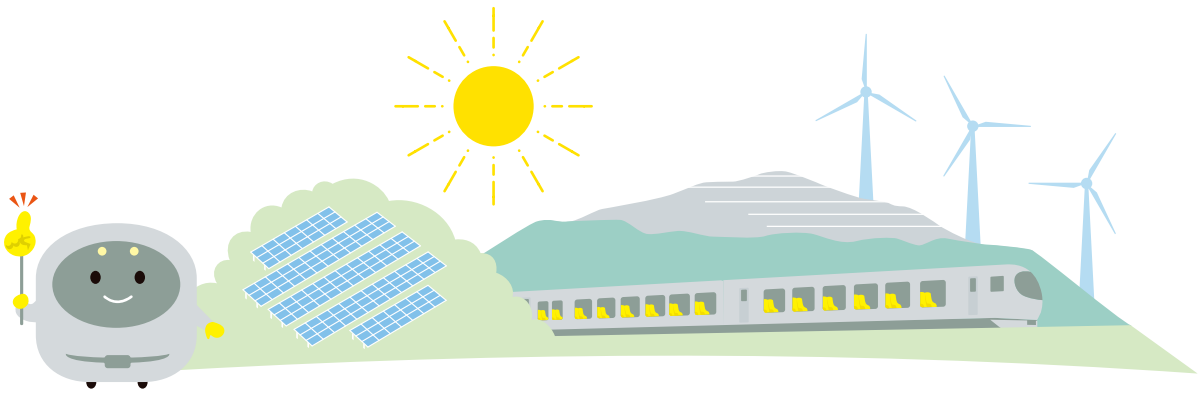
1 2025年度のエネルギー投入量とCO_2排出量

2024年1月より、列車運行に使用するすべての電力を再生可能エネルギー由来に切り替え、実質CO_2排出量ゼロでの運行を実現しました。また、インバータ制御車両の導入をはじめとする省エネルギー化を進めた結果、CO_2排出量を前年度比90.6%に削減しました。

	2023年度	2024年度	2025年度
エネルギー投入量(千GJ)	3,000	2,995	2,946
CO_2排出量(千t-CO_2) ※列車運行以外のCO_2排出量も含む	118	17	17

エネルギー投入量とCO_2排出量の推移





3 線路・電気設備における環境への取り組み



線路・電気設備における環境への取り組み

き電ちょう架式架線
変電所から架線に電気を送るためのき電線と、架線を吊り下げるちょう架線を兼ねた一体構造。部品点数の削減と景観の向上を図っています。



信号のLED化
信号に省エネ効果の高いLEDを導入しています。

防音壁(吸音板)の設置
高架区間などに設置し、騒音を低減しています。



ロングレール化
レールの継ぎ目をなくすロングレール化を推進。騒音·振動の低減や乗り心地の向上に取り組んでいます。

レールの重軌条化
高架区間ではレールの重量を1mあたり60kgのレールで騒音·振動の低減を図っています。

レールの定期的な削正
夜間に専用の機械(レール削正車)で削り、騒音の低減とレールの長寿命化、乗り心地の向上を図っています。

消音砕石の散布
高架区間において消音効果の高い砕石(砂利)を散布しています。

立体化工事における環境への取り組み

新宿線中井～野方駅間および東村山駅付近の連続立体交差事業において、低騒音·低振動の工法や機械の採用、仮囲いの設置など、騒音·振動の抑制を図っています。

分岐器(ポイント)の改良

分岐器を弾性分岐器に交換し継ぎ目を減らすことで、列車通過時の騒音·振動の低減を図っています。

鉄屑のリサイクル

工事などで発生した銅屑·鉄屑を資源として再利用しています。

リニューアブルディーゼルを保線機械「モーターカー」に導入

鉄道保線機械「モーターカー」の燃料として次世代バイオディーゼルであるリニューアブルディーゼル(以下RD)を導入しています。RDは既存の車両や給油関連施設をそのまま利用できるため、脱炭素施策に係るコストを最小限に抑えてGHG排出削減に大きく貢献できる燃料として期待されています。



RDを使用して運行するラッピングされた保線機械(モーターカー50号機)

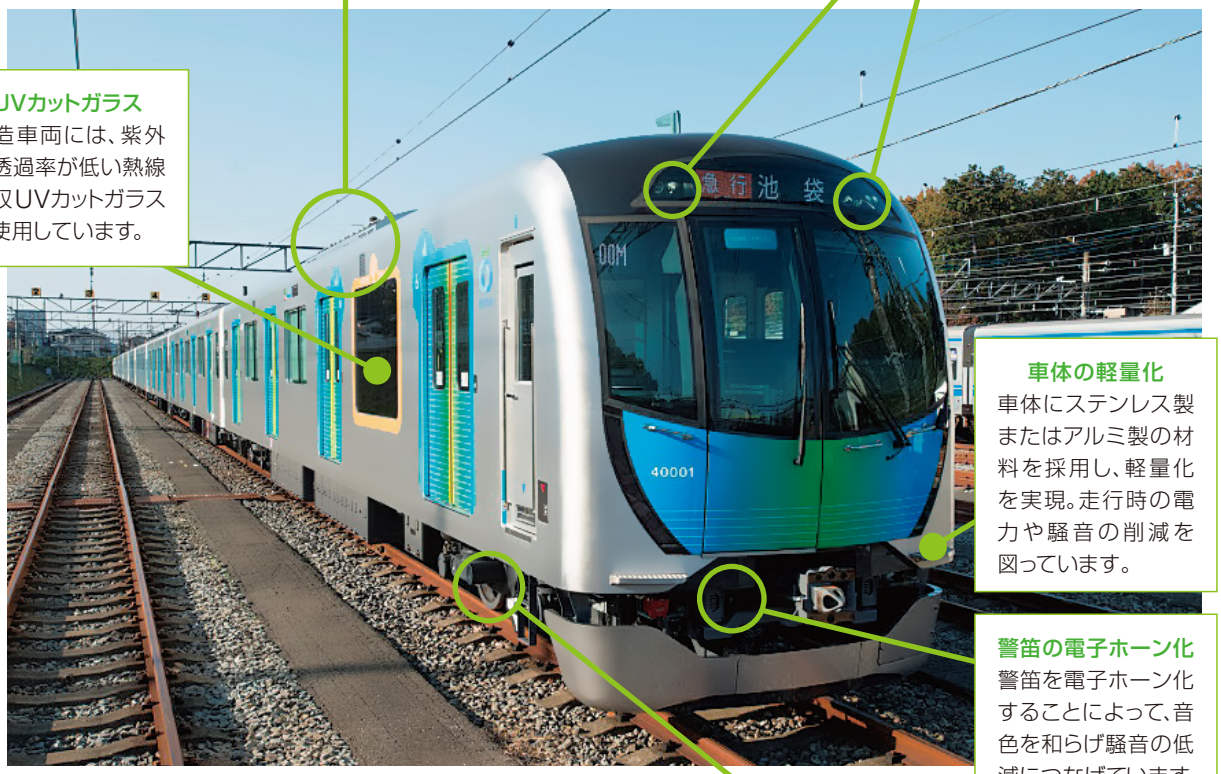
4 車両における環境への取り組み



代替フロンを使用した空調装置
地球温暖化への影響が少ない、代替フロン使用のクーラーを採用。既存の車両についても、更新時に置き換えを進めています。

前照灯
高輝度ＬＥＤを採用し、省電力や長寿命化とともに、太陽光に近い光を実現しました。夜間走行時も視界良好であり安全運転をサポートします。

UVカットガラス
新造車両には、紫外線透過率が低い熱線吸収UVカットガラスを使用しています。



写真は40000系

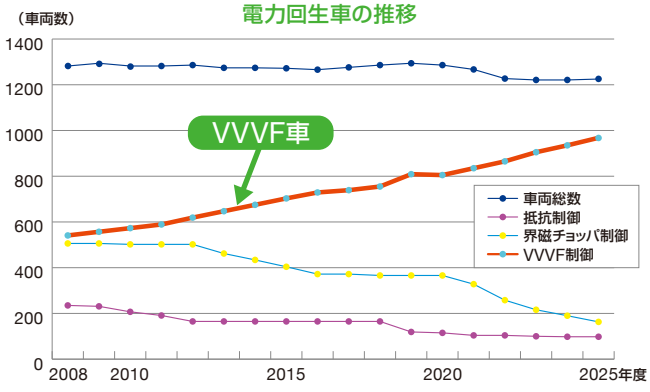
車体の軽量化
車体にステンレス製またはアルミ製の材料を採用し、軽量化を実現。走行時の電力や騒音の削減を図っています。

警笛の電子ホーン化
警笛を電子ホーン化することによって、音色を和らげ騒音の低減につなげています。

VVVFインバータ制御車両の導入
電圧や周波数を変化させながら交流モーターを制御し、エネルギー効率を高め、使用電力を削減。ブレーキエネルギーを電気に変換、発生した電気を架線に戻して他の列車に供給しています。



電力回生車の推移



防音車輪・滑走防止装置の採用
カーブ区間においてキーキーと鳴る「きしり音」などを低減するため、防音車輪を導入。また、車輪とレールの摩擦で出来る平らな傷（フラット）を防止し、騒音を低減するため、滑走防止装置を取り付けています。



車輪の定期的な削正
車輪を専用の機械で定期的に削正し、車輪の踏面に生じた歪を整え、走行時の振動・騒音の低減を図っています。

サステナ車両(※)の導入

2024年度より譲受した小田急電鉄8000形を始めとして、東急電鉄9000系をサステナ車両(※)として導入することにより、2030年度までに車両のVVVF化100%を達成し、車両の省エネルギー化を進めます。

(※)他社から譲受したVVVF制御車両を西武鉄道独自の呼称として定義



列車室内灯のLED化

2025年度末現在1113両にLED室内灯を採用しています。従来の蛍光灯より電力およびCO_2、廃棄物の削減を図ります。今後、ほかの車両にも順次拡大してまいります。

引退した車両の譲渡

西武線を引退した車両を他社に譲渡し、解体にかかる環境負荷を低減させています。



引退した車両の譲渡

環境ISO14001の認証取得

日高市にある武蔵丘車両検修場では、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得し、「人と環境にやさしい」検修場として、さまざまな取り組みを行っています。



5 鉄道施設における環境への取り組み

変電所機器の環境対策

変電所の整流器を冷却する冷媒を、温室効果物質を一切含まない「純水」へ切り替えています。また、特別高圧回路の絶縁物にも温暖化物質を使用しない機器を導入しています。

さらに、変圧器の絶縁油には、鉱油の代替として地球にやさしい「菜種油」を使用した機器を導入しています。

PCB廃棄物の管理・処理

使用済みのポリ塩化ビフェニル(PCB)機器は、法令に基づいて適正に保管し、届出を行っています。また、順次廃棄処理を行っています。

低VOC(揮発性有機化合物)への取り組み

駅や信号・踏切などの施設・設備の構築に当たり、光化学スモッグの発生原因のひとつであるVOCを削減するべく取り組んでいます。塗料から発生するVOCを削減するため、信号や踏切など関連施設では低VOC塗料を採用しています。また、駅で使用する鉄骨材の一部には、塗装を省略できる溶融亜鉛メッキ鋼材を使用し、VOCの100%削減を図っています。



溶融亜鉛メッキ

6 西武線における環境への取り組み



100%再生可能エネルギー由来の電力で西武鉄道全線を運行

環境に関する取り組みとして、2024年1月からすべての鉄道用電源を再生可能エネルギー由来とし、CO_2排出量が実質ゼロとなりました。なお、山口線（愛称：レオライナー）では2021年4月1日より、使用する電気使用量のすべてを、西武グループ運営の「西武武山ソーラーパワーステーション」で発電する環境価値が付いた電力でまかなっています。



メガソーラー発電設備の設置

武蔵丘車両検修場の屋根に太陽光パネルを設置し、発電した電気は電力事業者に売電しています。エネルギー情勢の変化に対応し、未来の地球環境保全に努めます。



武蔵丘車両検修場 太陽光発電設備

環境活動・地域貢献活動プロジェクト

「環境活動・地域貢献活動プロジェクト」として、2016年5月より延べ60回の活動を実施しました。参加者は池袋駅集合後、西武 旅するレストラン「52席の至福」に乗車。車内見学や食育インストラクターによる食育ワークショップを体験しながら秩父エリアに向かい、埼玉県秩父市、横瀬町などの公有地などで除草作業、植栽作業、竹林整備を行いました。2026年度は秩父エリアに加え川越エリアへ取り組みを広げ、沿線地域の環境保全・地域活性化につなげてまいります。



西武多摩川線サイクルトレインの実施

多摩川線では、自転車をそのまま車内に持ち込める「西武多摩川線サイクルトレイン」を実施しています。自動車に比べてCO_2の排出量が少ない電車と自転車を組み合わせてご利用いただくことにより、環境保全にも貢献しています。

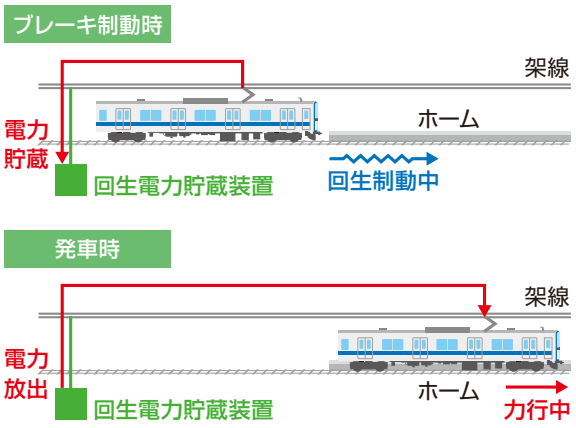




回生電力貯蔵装置の設置

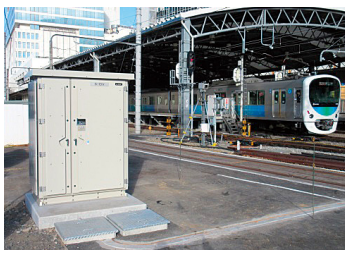
この装置は、回生車両がブレーキをかけた時に、車両に搭載した回生ブレーキにより発電した電気エネルギーを、変電所に設置した「回生電力貯蔵装置」に貯蔵するものです。この貯蔵した電力を電車が力行（発車・加速時）するときに放出することで、電力使用量を削減し、省エネルギー化を図っています。

回生電力貯蔵装置（田無変電所）



駅舎補助電源装置の設置

この装置は、回生車両が発電した電気エネルギーをほかの列車で利用できない場合に、駅設備（照明・空調・昇降機）の電源として用いるものです。現在は池袋駅ほか12ヵ所に設置し、電力の有効活用による省エネルギー化を図っています。





駅改良工事における省エネ化

駅改良工事に合わせ、駅照明などのLED化を進めています。

その他の駅での取り組み

- 映像・電飾看板など広告媒体の省エネ化
- 乗車券のICカード化・モバイル化推進による紙の削減
- 乗車券・定期券を再生紙などへリサイクル
- ゴミの分別回収

踏切照明のLED化

踏切照明のLED化を全線で進めています。

安全・環境への取り組みに対するご意見募集

西武鉄道では、電話およびメールで広くお客さまの声を受け付けています。
当社の安全・環境への取り組みに対する
ご意見・ご要望につきましてもこちらでお伺いしています。
お寄せいただいた声は今後の施策の参考にさせていただきます。

西武鉄道お客さまセンター

お問合せ・ご意見 **TEL.0570-005-712**

営業時間：9時～17時（12/30～1/3を除く）
音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

https://www.seiburailway.jp/

西武鉄道Webサイトから、「お問合せ、ご意見・ご要望チャットボット」も
ご利用いただけます。

西武鉄道　安全・環境報告書2026

編集
西武鉄道株式会社　鉄道本部　安全推進部
2026年（令和8年）9月

Switch!
SUSTAINABLE
TRAIN

西武鉄道サステナビリティアクションはこちら

www.seiburailway.jp/company/sustainabilityactions/